

まだ…ホットでない

我々のホットなストレージ技術動向には2019年の主流となるものが挙がっている。例年のように、そこから漏れた技術で扉を叩いてはいるが、まだこちら側には来ていないものを以下に挙げる。

ストレージ技術	判定
ハイパーコンバインド バックアップ	この用語は最近になって、あちこちで使われているが、どういう意味なのだろうか？ 市場にはコンバインド・セカンダリ・ストレージがあるが、ハイパーバイザを内蔵しているとは限らないし、バックアップにはオーバースペックだ。次に、ハイパーコンバインド用バックアップがあるが、サーバーベースのバックアップとあまり変わらない。唯一、Hycuというベンダーだけが、Nutanixの独自ハイパーバイザ上のデータ保護に特化している。
メモリーベースの ストレージ	ストレージクラス・メモリーも、2018年の同じリストにあった。3DXPoint Optane SSDの開発の遅れと失敗によって、この技術は2019年もホットなリストには行けない。
コンテナ用ストレージ/ マイクロサービス	コンテナは仮想化の未来だろうか？九分九厘そうだ。そして、コンテナとマイクロサービスの興隆は確実にストレージに影響をおよぼす。しかし、多くの新興のテクノロジーと同様、誇大な広告に現実が追いついていない。

